

日時：平成28年8月9日(火)13：30～16：30

場所：多摩市役所第二庁舎会議室

出席：豊ヶ丘複合館存続の会、東寺方複合館存続を考える会、
聖ヶ丘図書館の存続を考える会、唐木田図書館の存続を考える会、：19人
傍聴：1人
多摩市立図書館：中島館長、笹原 寺田大塚小林計画同人：寺田

参考資料(事前) ・「わたしたちの図書館をなくさないで」2016.05.市民情報誌 No.1
・「同上」ができるまで、
・「えっ！聖ヶ丘図書館なくなるの？」2014.11.30.対話集会記録
・「聖ヶ丘図書館 なくさないで！」2015.01.31.対話集会記録
・「公共施設の見直しと将来像」2016.07.多摩市政情報誌
参考資料(当日) ・「多摩市読書活動振興計画に対する5会有志のパブコメ」2016.02.
・「聖ヶ丘図書館の存続要望の運動に寄せられたメッセージ」2016.02.
・「豊ヶ丘複合館存続の会、市長懇談会のアンケートや意見」2015.12.
(その他、公民館・複合館の存続要望のなかに図書館が語られている。)

話題01、「わたしたちの図書館をなくさないで」をかえりみて。

(わたしたちの地域館の将来像への多様な意見の集約の方向性について。)

①二度の対話集会の議事録をもういちど読んでみる。大切な総論的方向性

- ・地域の出会いと交流、コミュニティの中心
- ・専門職員と資料が共存してこそその図書館
- ・お年寄りと子どものための歩いてゆける広場

→今のままでよいか、地域館の成長と将来像はどうイメージされたか、

②二度の対話集会の議事録をもういちど読んでみる。市民発言に自己診断を

- ・市民提案にも精査を：・民間やボランティア運営でコスト削減・PFI民間委託
- ・地域館があれば中央館は要らない・開館時間の縮小で歳出縮減を・本は消耗品だ
- ・利用率の低い本は捨てても良い・・・記録に踊る多様性？多摩市民の図書館観

→コミュニティ複合センターの部分として本のある居場所＝図書館？

③地域館は当面存続、将来像の合意形成は中央館開館後の市民意見集約で

- ・2022.H34.豊ヶ丘大改修、2023.H35.東寺方大改修のときの市民意識。
 - ・地域館の資料世界への期待、開架世界からの感得、に言及がない利用者。
- 基本構想策定委員会に伝えたい、地域館の将来像に望むこと。利用者像。

話題02、新中央図書館について基本構想策定委員会に伝えたいこと。

(図書館はひとつの建物ではなくサービスのシステムだと共通認識をもちながら現実の図書館体験から生まれる中央館や地域館の図書館像の方向は同じでない。)
→これから始まるそれぞれの地域での協働は学習型でありたい。

①第2回策定委員会の議論を聞いていて、伝えたいこと、地域図書館への思い。

- ・地域館の人と資料と場をどのように守り、縮減するのか。(選択と集中)
- ・地域館が存続しても、中央館に期待することはなにか。(図書館とは何か)
- ・多様な対話集会の言葉から、何を編み書き記し浮かび上がらせて欲しいか。

②中央図書館は要らないという市民も育んだ多摩市の図書館像、その将来像は。

- ・新中央館は現本館とどう違うべきか。構想は地域館中心の図書館システムか？
- ・図書館の市民性、広場性、地域性への期待は、言葉・発言にあふれている。
- ・図書館の専門性(職員・資料世界・環境／自律した市民)への展望・発言は？

③中央館構想と併行するこれからの地域図書館像の研究は、住民協働のかたちで。

唐木田・豊ヶ丘・聖ヶ丘・東寺方 地域館が 当面存続することになって、会が考えることは？
唐木田・豊ヶ丘・聖ヶ丘・東寺方 地域館の活動と環境、守るべきいまは、変えるべきことは？
図書館サービスシステムのランチに対して、センターに対して、希望していること。などなど、

◎各地域の複合館の存続を求めて、市民活動を続けて来られた方々、出席者全員からお話を伺った。運動のこれまで、そして、当面の存続が確定した現在のお気持ち、さらに、今後の複合館の地域図書館について、要約される30項目を記した。

◎それぞれの地域館で個人の利用から語られる「図書館地域館がなぜ必要なのか」という住民の切実熱烈な声は、各所での市民対話集会の克明な記録(左記)に明らかに述べられている。

○廃止と一度は発表された現在の図書館地域館について、一度立ち止まって、今後市民と共に検討をすると説明があった。必要な機能の分析など協働で進める形式・方法を待っている。

○地域図書館の廃止方針を聞いて、これを再考して貰うことに集中してきた。地域館の将来像をすぐには判らないが、これを地域住民が関わり考えていくかたちが必要だと思っている。

○市全体の長期的視点でどう個別の事業が組み立てられたのか。なぜ地域館廃止が必要で、なぜ猶予になったか、判らない。市民要望で5回豊ヶ丘の対話集会があっても行政不信がある。

○2014年以来どの市民アンケートでも、上位に図書館が大切と客観的データがあった。その資料に続けて、図書館地域館の縮減という反対の政策が出て来るのか、いまま理解できない。

○聖ヶ丘に住みやまぼと号を利用し、要望が叶い地域図書館が生まれた。三年前に4館廃止になると聞いた。図書館司書の勉強もしてきたが、政策の一貫性について理解が出来ない。

○やっと見直しまで来たが、これまでの経緯については未だに理解が出来ず釈然としない。それぞれの今後の地域館像には大勢の住民と民主的プロセスで方向性を考えさせてほしい。

○唐木田の説明では、地域包括センターを新たに造り、そこに図書館が入ると聞いた。図書館が一緒になる話しはおかしい。(そういう検討や決定は図書館にも構想条件にもありません)

○地域包括センターと図書館を絡めたビジョンが市にあるのか。かつてのワークショップで、高齢者の生き甲斐・子どもの居場所・社会教育の3視点から「図書館の活用」を議論した。

○地域施設の廃止などいきなり公共資産の縮減からだけ市民に情報提示するのではなく、廃校学校跡地の活用など総合的に地域のまちづくりとして将来像を示して欲しい。

○いま見直し表明を受けて、豊ヶ丘図書館の廃止に反対するだけでなく、市民の眼で会として地域館の課題を洗い出したい。

○地域社会には、医療や看護や防災などの新しい情報が必要になってきている。地域図書館の資料ニーズも変わるだろう。

○新中央館についても地域図書館のありかたについても、意見の聞かれ方、聞き方に工夫が必要だと思う。

○豊ヶ丘から考えた。地域図書館が先にあってこそ、中央館や多摩市の図書館システムがあると策定委員会に伝えて欲しい。

○豊ヶ丘では、現本館がない時代から、6100人(マ)が利用して、本館貸し出し38万冊の約半分の16万冊の貸し出しをしている。(新中央館ができて、豊ヶ丘地域館の重要性は変わらない)

○既存の豊ヶ丘図書館には、階段にエレベーターが無く、読書会やお話室のスペースが無い。図書館施設として魅力アップができれば、現状よりももっと使われる。

○図書館は生き物で、成長するか退行するかだと話しがあった。聖ヶ丘図書館に寄せられた熱烈な市民意見は、奇をてらわず、歩いてゆける身近な、成長も退行もなく横這いの姿でよい。

○地域館は誰が見ても良い図書館でなくてよい。図書館の基本的役割をきちんとやってくれること。(その基本的役割とは)

○聖ヶ丘コミセンで俳句の会が3年続いている。図書館で資料を借りて「楽しむ」を大切に私は豊かな時間を過ごしている。地域につながる活動は地域の場で。それを支える図書館の大切。

○聖館の壁広報板に「地域館を残して」のメッセージカードが2週間で60枚集まった。貸出率や登録率など数字で表される行政効果をこえて、ひとりひとりの思いを受け止めて、その人生を支えることは、地域図書館の存在理由・核心だろう。

○中央館ができた後も、本の量が縮小されても、地域図書館がもっと魅力的専門的に利用者を引きつける場所にできないか。

○図書館協議会の答申のように、中央館を補完する地域館ではなく、地域館を支援する中央館、という図書館システムで。

○地域の学校に近く関係を深くする地域図書館が子どもに大切。

○こどもがひとりで出かけられ、朝読みの本を探す地域図書館。

○車を持たぬ複数の子供の母として、児童館や福祉館と並んだ地域図書館に通って隣人に交わり、地域についても学ぶ喜び。地域図書館に最後まで通い人生を全うした親を見守った思い。

○利用者懇談会を図書館地域館べつに、定期的にあってほしい。

○地域館の行事や催事計画を明らかにして住民参加を誘いたい。図書館地域館ごと、ファンクラブ、友の会も必要かもしれない。

○地域の図書館を軽視して廃止することは、こどもやお年寄りを捨てることになる。(地域の暮らしから目をそらすこと)

○唐木田図書館を利用しているが、市の直営に戻してほしい。

○図書資料の購入や廃棄にも地域館の判断と意志を活かしたい。バスや電車の通勤者は、地域館に立ち寄れることがうれしい。働く人達は、土日には、近隣の駅前の図書館が利用しやすい。

○唐木田図書館は委託で運営している。経費削減の大方針の中、その効果と利用評価を基本構想策定委員会で確認して欲しい。市民に近い地域図書館こそ顔の見える行政の直営が相応しい。

多摩市立図書館本館再構築基本構想 ヒアリング／地域館の存続を考える4会

多摩市立図書館本館再構築基本構想
活動資料／参加者の意見より一部抜粋

- 「わたしたちの図書館をなくさないで」2016.05.市民情報誌 No.1：策定委員会に前文配付
- 「わたしたちの図書館をなくさないで」ができるまで：策定委員会に前文配付

- 「えっ！聖ヶ丘図書館なくなるの？」2014.11.30.対話集会記録
- 「聖ヶ丘図書館 なくさないで！」2015.01.31.対話集会記録

- 「聖ヶ丘図書館の存続要望の運動に寄せられたメッセージ」2016.02.
- 「豊ヶ丘複合館存続の会、市長懇談会のアンケートや意見」2015.12.

- 永山フェスの壁掲示「地域館を残して」のメッセージカードより
- 「多摩市読書活動振興計画に対する5会有志のパブコメ」2016.02.

聖ヶ丘3丁目〇〇さん 図書館が3館に集約された場合、先ほど全市民が利用できる本館を作る
とお答えになりますが、全市民は利用できません。高齢者、子供たち、赤ちゃんを連れてお母さん、それから車でしか行けない本館は利用できるでしょうか。中央館は利用できるでしょうか。それから永山図書館も歩いて15分、山坂あります。足が弱った高齢者が行けるでしょうか。赤ちゃん連れのお母さん、幼児は一人で行けるでしょうか。
聖ヶ丘の図書館は子どもたちが実際に本を見て選ぶことができます。絵本は子どもたちが実際に本を見て選んでいます。
それからもう一つ、図書館は本が置いてある人がいます。図書館は資料があってそれを本と利用者
を繋ぐ図書館の職員がいます。それが一番大切です。
職員の方、専門的知識を持った司書の方を中心とした職員の方がいないような図書館は、考え
られません。聖ヶ丘図書館は発足してから、児童サービスに力を入れています。お話しコーナー
のお話し会で子どもたちと本を結びつける活動をしています。私達もそのお手伝いをしていま
すけれども、基本は図書館の職員の方に元児童サービスが基となって行われています。本がない
ところで、お話し会や読み聞かせは意味がありません。本があってこそ、そういうお話し会も
できます。ですから、いま市が考えられている聖ヶ丘図書館を無くした後について、サービスは
どうなるのでしょうか。それをお伺いしたいと思います。

聖ヶ丘2丁目〇〇さん |
それからもう一つは、中央館を整備するのは結構だと思います。住民のサービスが向上するよ
うな整備であれば、私は大いにやっていただきたいと思えます。むしろ住民のサービスが低下す
るようなり方では、中央館を作るという構想であるならば、それは問題ではないかと思えます。
まさに住民の生活サービスを市が果たすというのは、公共の行政の鉄則ですから、その鉄則を自
ら撤回していることとなりますよ。非常に問題だと思っております。
それから私、聖ヶ丘に来まして図書館があるから来たといっても過言ではないのですが、もう
一つ言いますとつい最近いなげやさんが無くなって、ビックユーさんが来てくれて、買い物限界
集落では無くなったんですね。今度は図書館が無くなりますと、図書館限界集落になってしま
います。窓口でパソコン使える人はいいのですが、ほとんどの高齢者は使えません。行き届いたサ
ービスをきちんと住民に提供する、ただ予算ありきで、先ほど聞いていますと全国で優良な自治
体であれば、そのくらいは出来るはずですよ。知恵の出どころですよ。
是非よろしくお願いします。(拍手)

聖ヶ丘〇〇さん 今日傍聴させていただくために参ったのですが、先ほど聖ヶ丘の〇〇さんが言
ったように黙っておれなくなって発言します。
多摩市の図書館の良さを聞いていたので財政的なことで、4館を潰して、3館というふうに
集約していくという、これは非常に図書館の動きからすると、全く逆のお話しだと思います。身
近なところで図書館を利用して子どもが育っていくという事がどれほど大事なことが、一日一日
が大切なのです。そういうところをしっかりと踏まえて頂かないと多摩市は住み易いと言われてい
ますけれど、それをこういう形で集約していくと若い人が来なくなります。
私も「中央図書館を作る会」に入っていますが、地域図書館を潰して中央図書館を作るって
いう、そういう願いはないのです。
暴暴な計画そのものを見直すべきだと思います。私のところは陳情で、探採されましたので、
残していただくようには是非お願いしたいし、聖ヶ丘図書館を削るようなことはしないで欲しい。
それは最低の願いですので、よろしくお願いします。(拍手)

聖ヶ丘〇〇さん 今日は黙ってようと思っておりましたが、いろいろな話を伺って、黙って
いられたので、ちょっとだけ発言させていただきます。
今日図書館の機能について、まったく本質論がなされてないなと、さっき言われた方に大賛成
なのですが、中央図書館の大きいのを作っているの揃えようと思ったって予算が違いつきこ
ないですよ。図書館の本質論には図書館長のお話しがありましたけれど、ビジネスの考え方で
すよね。利用者が多いからそこだけを残して、あとは潰そうというのには、まさに利益が上がって
いる工場だからここだけ残して他の工場はやめちゃうとか、そういうビジネスの考え方で。公
共施設はビジネスの考え方でよいのだろうか。図書館には私もよく行きますけれど老人が200
m歩いて行けるでしょうか。老人福祉という観点もあるかもしれませんが、子供が最初本に出会
うのが図書館ですよ。読み聞かせですね。あるいは生まれるときに多摩市もそこかもしれない
が、母子手帳と一緒に図書館カードをくれるところもあるらしい。ATMのような考え方でネ
ットワーク作って本の配達と注文を受けますって言っても子どもがいますか。そういう全く反対
のビジネスの考え方、今のコンパクトシティの考え方で図書館の機能を考えてもらっては非常に困
る。地域にむしろ増やさなくては行けないと思うぐらいですよ

【聖ヶ丘2丁目〇〇さん】聖ヶ丘図書館の廃止案がある事を知り大変ショックを受けて今日は参加しま
した。聖ヶ丘地域に暮らして30年近くになりますが、迎いの高齢者が増えたように感じます。足の便を
考えると子供や高齢者の為にもこの付近の住民にとって聖ヶ丘図書館はありがたい存在です。(坂道、
階段の多い地形も考えて)図書館は文化のシンボルでもあり、多摩市に沢山の図書館がある事は誇ら
しいと思います。運営に際して、開館を短縮する、スタッフに地域の優秀なシルバー世代にボランティア
(有償でも)で係わって頂く、など工夫すれば良いのではと考えます。私が地元図書館に求める役割
は学術的に立派なものではなく知的好奇心を満たしてくれる身近な本を手に入れるという事です。税収
が減っている事を理解しておりますが、削るべきところは他にあると思います。(パルテノン多摩
など)この集会で皆様の意見を拝聴し、市の方々もこの切実な聖ヶ丘図書館への想いを是非くみ取って頂
きたいと思えました。

地域の上生 参加者の中で比較的若い世代で今大学生なんです。ちょっと話をさせて頂きたく
て手を上げました。皆さんのご意見はその通りだと思っていました。自分、22歳なんですけど今日
のお話しの印象としては、中央図書館の建設と分館の廃止が完全に混合されているなと思いま
した。中央図書館を作ることに対してはあまり否定的な意見はないのですが、作るから分館を廃止
します、集約するということに全部話が持っていかれて、図書館の本来の意義が全く理解され
ていないのです。中央図書館も分館もあって、というのが理想の姿だと思います。地域としての
その両方の理想を実現するのはなかなか、片方だけを掲げて・・・緊張してしまっ... 図書館の
役割、本を貸したり借りたりだけでなく、人と人との繋がりがあってたりして、地域に絶対必要
なものであって、私も子育てする世代だと思いますけど、子どもを連れてきたり、子ども一人と触
れ合うことを教えるところであって、特に聖ヶ丘図書館は、昔からつくしんぼ文庫の皆さんに
お世話になっているんですけれど、読み聞かせイベントとか、何度も何度もお世話になっている、
無くなってしまうのが悲しいのです。聖ヶ丘図書館だけでなく今後廃止を押しつけられている分館
の数々の役割をもう一度考え直していただいて、この会は聖ヶ丘図書館についてだと思っ
てください、一般の方と力を合わせて分館全部を残したいと私は強く思いました。(拍手) 最後になり
ますが、この意見がどこまで市長に届くのか不明で、会の方にお伺いしたいのですけれど、本日
の録音、書き起こして確実に市長に届けていただきたいとお願います。(拍手)

聖ヶ丘図書館の存続を求める要請署名

聖ヶ丘図書館の存続を考える会

私たちは、下記の理由により、聖ヶ丘図書館の存続を要請いたします。

- ① 図書館は、子どもや高齢者が歩いて行ける所にこそ、あってほしいのです。
幼児や小学生が1人でバスに乗って駅前図書館に行くことはできません。速くに立派な図書館があ
っても利用できない人が多数います。近くに誰でも気軽に行ける図書館があってほしいのです。
- ② 聖ヶ丘図書館は、実際にそこに本があり、手に取って、見て、選ぶ事ができます。
図書館司書がいて、探している本や読みたい事柄について相談にのってもらえます。
図書館をなくし、本の予約・貸出し・返却だけの機能設置では、サービスの低下でしかありません。
- ③ 聖ヶ丘図書館は、多くの市民が利用しています。
年間延べ4万人の貸出者。おはなし会参加人数年間約1000人。立ち寄って読書する人やブラウ
ジングコーナー利用者は後を絶ちません。これらの人々を切り捨てないでください。
- ④ 若い世代が住みたくなくなる魅力的な街づくりの為に、図書館は必要です。
「図書館があるから選びました」と言う転入者もいます。駅から徒歩15分～20分、高齢化が進
み、放っておけば地域衰退の危機もあります。そんな聖ヶ丘地域活性化の為に図書館は必要です。
- ⑤ 「コスト削減のために廃止」は納得できません。



「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」

寄せられたみなさんからのメッセージ
2016.1/15～2/5 市民センター 展示
存続を求める利用者の声を受け止めてください

★たくさんの人たちが利用したり、交流する場でも
あるの、市が反対するまでは、なくさないでくだ
さい。
★全人口の30%って、すごい数字だと思います。
★図書館あればよ。図書館切らないで、これからは
大好き。
★図書館は家から近いし、たくさん本も読めるし、
読んでいる本もいっぱいあるから、図書館をなく
さないで。
★図書館は大好きな本がいっぱいあるので、なくさ
ないでください。
★大好きな聖ヶ丘図書館なくさないでください！
いつも、お気に入りの本を探しに来るのが楽しみです
。残しておいて...
★係と本を探しにくるのが楽しみです。聖ヶ丘図書
館を失くさないで！
★聖ヶ丘図書館ぜひ残したい！
★大きな本屋でも取り扱ってない古いの面白い本も、
ここでは手にとって読めたのがうれしかった
んです。
★子どもにとって、歩いて行ける図書館、駅前の繁
華街ではない所にある図書館というのが奪われ
るのは困ります。小規模でもいいので存続を！
★お気に入りの本、たくさんあるから図書館なくさ
ないで！

市長との対話集会に寄せられたご意見・ご感想

【聖ヶ丘図書館の存続を考える会】

市側の主張もよく判りまし、地域の要となる居場所としての図書館の重要さも感じます。唐木田
図書館が窓口業務のみ指定管理しても、人件費が減らないという事なので、ひじり館図書館では窓口業
務だけでも地域住民のボランティア(無償)行えば、存続出来るのであれば、有志の人たちで担い手
を探したらどうでしょう。

◎ そもそもひじり館そして図書館を作る時の計画には「志」があったはずで、文化的・教育的・交流
のこと・老若男女・そして子ども達。
総合的な施設でしょう。ここは利益を追求する場であってはならず、他の公共施設とは違う地域の中心
をなすものはずで。その「志」が変じてきているとは思えない。
たとえば、図書館・美術館・博物館・その他記念館があったとして、それぞれが採算を考えて運用を
するのであれば、最初から遊るべきではなかった。
今日も近所の40代の父親と5～6歳の女の子が一緒に数冊の本を抱えて返却へと向かう姿を見たとき、
やはり教育的見地からも近隣交流の観点からも存在してほしい。
世の中老人増加、少子化現象は行くところまでいってしょう。であるからこそ、地域の施設の役割が
大事になると考えます。距離が遠ければその事も希薄になる事でしょう。
BETTER PRAN よろしく！

★本をたくさん読みたい、なくさないで！
★こんにちは、わたしは多摩市に住んでいる50代
サラリーマンです。つい数年前までは、聖図書館の
存在すら知りませんでした。そんなわたしが聖図書館
と出会ったのは、2年前のことです。その時、わた
しは妻と離婚調停中でした。いわゆる熟年離婚で
す。わたしは別れたくありませんでした。10年前
に購入した家のローンまだ残っていた。何より息子、
娘と離れたくなかったのです。しかし不運なことに
話し合いは順調に進み、離婚は決定的なものとなり
ました。何も考えず途方にくれ歩いていて「ひじり
館」にいました。初めて来たはずなのに不思議と
聖図書館に歩き出しました。その時ふと目に入った
本がありました。それは「グリとグラ」です。この絵
本は、中川李枝子さん、山脇百合子の作品で双子の
野ねずみがいちいちいろいろこをすするものです。
「グリとグラ」には思い出がたくさんあります。息子が
小さい頃家に来たとき、読み聞かせてあげていました。
あの時の息子の顔は可愛かったなあーそれからほ
ぼ毎日通い続けました。そうすることわたしは教
わられたのです。わたしのように聖図書館に求める方
が他にもいると思います。なので聖図書館をなくさ
ないでください。
★ひじりがおかとしよかんできんできたことはか
かせない、おもいます。ぜったいなくさないで。
★としよかんをなくさないで
★聖ヶ丘図書館をなくさないで！図書館で本を読
む時間をなくさないでほしい。廃止しないでくだ
さい。5年生
★generation change
★いろいろな本に出会う機会をへらしたくありま
せん！大好きな図書館を廃止しないでください。ぜ
ったいに！
★なくなるというのはかないです。
★聖ヶ丘図書館は生活の中でなくてはならないも
のです。たくさん本をよみつづけたいでなくさ
ないでください！
★図書館は「知る」喜びをもって、わたしを育てて
くれた場です。身近なところにあつてこそ、わたし
たちは、家族は支えられました。
★まだまだ読みたい本がた〜さんあるから絶対
図書館なくさないで！
★本をタダで借りるということは、本屋さんの経営
を圧迫している民衆圧迫です。大人なんだからよく
考えないと。
★普段着で来られる聖ヶ丘図書館愛用してい
ます。なくなつては困ります。
★図書館なくなるのか、いままでもありがとう。でも
なくさないで...
★聖ヶ丘図書館なくさないで！
★聖ヶ丘図書館なくさないでください！近くて便
利ではない所にある図書館というのが奪われ
るのは困ります。小規模でもいいので存続を！
★図書館！小さい頃から、大好きです。なのでなく
さないでください。
★図書館～私の生活の一部です。ひじり図書館いつ
までも在ってほしい。
★書架はふとんである。夢をつむぐふとんを刺さ
つてはならぬ。
★聖ヶ丘図書館、大好きです。なくさないでくだ
さい。
★コミュニティおさないで！聖ヶ丘図書館なくさ
ないで！スーパーマーケット、商店街、介護施設そ
して何よりの図書館がひじりの街を支えています。
★昔からうけついでいるスーパーマーケット。「B
ig-A」は、初めてのおつかいもしたい出の場所な
のでなくさないでください。
★聖ヶ丘図書館をぜひのこしたい。
★聖ヶ丘図書館が家から近くて、なくなつたら遠く
にいかなきゃ本が読めないからなくさないで！
★聖ヶ丘図書館はコミセンと併設で計画時から乗
知を集め、市内で最も優れた運営では。残すべきで
す。
★図書館はほかにもある。でも聖ヶ丘図書館は、近
い！なのでいつでもかきたいのでなくさないでくだ
さい。
★図書館を大切に！
★本もよみたい。図書かんなくさないで！
★なくさないでください。
★聖ヶ丘図書館をぜひ残したい！！
★わたしは貝取からこの聖ヶ丘センターに来てい
ます。図書館をなくさず、皆がゆりのあるセンタ
ーであつてほしいです。どこよりもこの聖ヶ丘セン
ターが私大好きです！図書館もあるから皆が集まる
ことが出来るのです。これからよろしく！
★ひじりがおかとしよかんがなくなると生活で本
をかりたりするばしょがなくなります。ひじりがお
かとしよかんをなくさないでください。
★本が大好きです。家から近くてべんり、なくさ
ないでください。ぜったいに！！おねがいます。
★聖ヶ丘図書館とBig-Aは、なくさないでくだ
さい。「聖ヶ丘図書館」！！読みたい本がまだよみきれ
ないでなくさないでください。
★貸出率、日本でも1、2位とききました。中央図
書館の費用(計画)は20億とか！！地域図書館は
金がかかるという、金がないという、おかしくな
い？
(数枚、絵のみを描いていただいた方もありました)
2016.02.05
なくさないで！
★図書館～私の生活の一部です。ひじり図書館いつ

図書館をなくさないで！

そんな誇りあるステキな場所です。
本の利用だけでなく、みんなが利用する図書館を、
インターネット活用...
あつ、みんなのいい場所です。
私は図書館司書の勉強を大学でやりましたが、多摩市の図書館が授業でできました。

「地域館を残して」のメッセージカードより

—第5回市長懇談会—
○2015年12月19日(土)10:30～12:00 聖ヶ丘地区市民ホール
○主催：聖ヶ丘複合館存続の会 協力：多摩市
○参加者 市長：55人

●大規模一・存続の会代表
聖ヶ丘複合館についての市長との懇談会は今回が5回目であるが、そもそもの始まりは、2013年秋に多摩市が「公
共施設の適正配置に関する行動計画の骨子(案)」を公表し、この聖ヶ丘複合館の廃止を打ち出したことにある。これ
に対してわたしたちは、聖ヶ丘と近隣地域の有志で、複合館の存続と確実な活用を求める活動を開始した。第1回の
会合を2013年10月14日に持ち「聖ヶ丘複合館存続の会」を設立した。11月中旬から、市議会への聖ヶ丘複合館存続
の陳情の署名集めを開始し、12月市議会に提出した(最終的には、署名3673筆集約)。その後2度の継続審議を経て、
2014年6月議会で「陳情が採択」された。「存続は決まったのに、存続の会はまだやっているの？」とよく聞かれるが、
複合館の存続の陳情は認められたものの、どのような形で存続していくのかはまだ明確ではない。陳情の採択を受けて
市はどうして行くのか、その考えと対応をきちんと説明して欲しいと、市長に第5回の懇談会を申し入れたのは4
月であった。世の中あちこちで0か1か、一票差で多数を握った方が民主主義だといふのはどうなのかな？とい
う気がしています。決して一票差で勝つたから我々に従えという事では無いのだと思います。

多摩市読書活動振興計画 原案 (2015年12月24日) に対する 私たち一人ひとりの意見

—メンバー有志が投函したパブリックコメント—
※多摩市図書館は2016年1月16日～31日まで図書館7館各館で市民懇談会を開催し、ここでもそれぞれの地域で参加者からたくさん意見が出された。多摩市図書館はこの懇談会で出された意見もパブリックコメントとして扱うと明言している。市民の意見を尊重する素晴らしい姿勢と受け止めた。内容への反映をこころより期待したい。

多摩市読書活動振興計画 原案(2015年12月24日) に対する私たちの意見

—メンバー有志が投函したパブリックコメント—
編集・発行 聖ヶ丘複合館存続の会
東寺方複合館の存続を考える会
聖ヶ丘図書館の存続を考える会
唐木田図書館の存続を考える会
多摩市の社会教育を考える会
発行日 2016年2月26日
問い合わせ先 光永正直(聖ヶ丘複合館存続の会)
電話 042-374-3067

多摩市立図書館本館再構築基本構想 ヒアリング／多摩市の社会教育を考える会

多摩市立図書館本館再構築基本構想 ヒアリングノート

日時：平成28年8月25日(木)16：00～18：00

場所：多摩市立図書館本館講座室

出席：多摩市の社会教育を考える会： 5人

多摩市立図書館：中島館長、阿部関戸図書館長、笹原主査

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

話題01、これまでの会の活動と考えについて。

- 平成26年10月に、地域館の存続を願う活動の準備が始まった。(豊ヶ丘図書館は先行して存続を願う活動が始まっていた。)それまでは、他の図書館の利用団体は連携していなかった。四団体の市議会選挙の立候補予定者の対話集会を行いたい、という希望を受けて社会教育を考える会が引き受けた、という経緯がある。
- 会として、会員制はとくにとっていない。文書を出すときのみ会としての合意形成を行っている。
- 社会教育施設は、日々の生活の中での学びを地域が支えるものだと考えている。一人一人の学びを支える施設。
- 社会教育を考える会としての活動は、社会教育に加えて財政・自治などを含めた学習会を行っている。図書館に関しては「市民の図書館」を改めて読み合わせるなど、勉強を始めた段階である。基本構想策定委員会が始まってからすでに2回学習会を行っている。
- 存続問題を考えるようになって、改めて、地域図書館があったらいいと思っ直している。この2年間で学びがあった。

キーワード

- ①第五次総合計画「図書館のあり方を分散型から集約型に転換する」について
- ②第五次総合計画に対して、会が考える「多摩市の図書館の目標設定」について
- ③先進国が必ずむかえる成長管理型社会に対応した図書館政策の「選択と集中」について

話題02、多摩市本館再構築基本構想策定委員会に伝えたいこと。

①地域図書館のこれからのあり方。

- 東寺方と豊ヶ丘は複合の形が似ているので、今後を考えるとときに個別ではなく考えたい。連携した運動は力になると思う。
- 聖ヶ丘図書館の企画展示がとても良い。ほとんどの資料が借りられている。健康と生活に関する課題解決の企画は関心を持たれているようだ。地域館では、地域包括支援センターとの複合案があるが、ランチ機能だったら考えても良いのではないかと。情報が手に入りやすい。
- 浦安市の分館は、正規職員1人嘱託1人程度で運営している。
- 開館時間を短縮しないでほしいという意見もあるが、町田市は曜日ごとに開館時間を変えている。工夫できないか。→開館時間の検討、自動貸出機の導入など職員配置が軽減できる工夫もある。

②新中央図書館のあり方。

- 新図書館の予定地は駅から遠く、利用者に厳しい。ミニバスなどを考えてほしい。
- 少しでも魅力が上がるよう、図書館単独館でなく、塩尻の図書館などのように公民館の併設なども考えてはどうか。今の本館の活動室は、夜間に利用ができない。→欧米には公民館というものはなく、図書館で様々な活動を行っている。他市では、20年前の図書館でも会議室や小ホール、和室やギャラリーなどの集会展示施設を持った図書館単独館が建設されている。

※本会は個人での参加が原則であり、表明され記録される意見は会としての意見でなく、全てを皆が賛同しているわけでもない。

- 「地域館を中心として中央館はそれを支えるかたち」であってほしい。

- 地域館とはどういくものか
 - ・静かに読書するスペース、貸出だけでなく、ある程度の本が配架されてほしい。
 - ・高齢化していく。身近に歩いて行けるところに図書館があるのは重要。子どもにも大切。
 - ・永山図書館が忙しいようだが、諏訪図書館がなくなったからか。地域館は今の数でよいか。
 - ・地域資料も地域館にある程度必要。市民運動のアーカイブも保存してほしい。
 - ・図書の本蔵は今の館籍がない形で良いか、勉強中。浦安市の図書館などは参考にしたい。

- 本館について
 - ・落合地区に地域館がないので本館がその役割になるか。
 - ・参考資料と調査スペースがあるとよい。
 - ・多摩市は丘陵地帯で出掛けにくい。建設予定地で新本館ができて使われないのでは。
 - ・財政的な問題で本館に予算がかかるなら、本館よりも地域館を重視したいという意見がある。→現在の本館は、利用しない人にとっては価値がないのか。
 - 本来あるべき中央館の形になっていけば強力なマグネットになり、利用者は使うようになる。他市の事例などを研究して勉強していく必要がある。

③専門職のこれからのあり方。

- 専門職の育成・研修について
 - ・嘱託職員の待遇について留意してほしい。専門性が育つしくみも考えたい。
 - ・図書館作成のパスファインダーは、とても良い資料なのでインターネットで見られるようにしてほしい。
 - ・本館は休館日が月1回だけ。週1回休館にして職員が研修できる時間を増やしてはどうか。
 - ・現在の体制では、職員が顔を合わせる機会が少ない。職員が疲弊して委託化するようなことにならないよう考えていきたい。
 - ・正規職員が増やせないので非正規職員を増やすことになり、頭数が多くても専門性は育たない。専門職集団となれるようにしていきたい。
 - ・人間としての研修も大切だと思う。課題を与えず、自由な研修をしてほしい。

④社会教育を考える会が考える、図書館計画や活動における「市民協働のかたち」は。

- 図書館友の会
 - ・地域図書館が存続されることになったが、今後どのように存続させていくかは勉強を進めたい。
 - ・存続を求める会が、それぞれ友の会に発展することも考えられるし、下地ができているように思う。
- 市民の情報誌第2段では、図書館員の力も借りながら「こんな図書館を求めている」ということをまとめていきたい。

多摩市の社会教育を考える会

●多摩市の社会教育政策、図書館政策のあり方への問い掛け

このままでは関戸公民館は廃止されています。	
今、多摩市は、地域図書館を削減しようとしています。	
せつかく7館構想が実つたというに、また、一館では問題の業務委託が継続中。	児童館も削減されそう(当面は残すとされつつも…)。こんなに地域に根づいているのに、

多摩市の社会教育を考える会
代表 荒井容子 (多摩市の社会教育を考える会)
会員 大橋慶一 (豊ヶ丘複合館存続の会 所属)
齊藤 仁 (東寺方複合館の存続を考える会 所属)
辻山妙子 (聖ヶ丘図書館の存続を考える会 所属)
中江智明 (唐木田図書館の存続を考える会 所属)
青木洋子 (多摩市中央図書館をつくる会 所属) ほか多数

タイトル 第五次多摩市総合計画第2期基本計画原案への意見 氏名 荒井容子

意見 提示されている「第5次総合計画第2期基本計画原案」について意見を述べます。特に、「政策 C2 豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり」の中で、「今後4年間の重点的な取り組み」として掲げられているうちの「② 学習環境の整備 (⇒C2-1-1)」について意見を述べます。

まず3点の問題を指摘し、その上で最後に、この基本計画原案の検討の方法と関わった意見を述べます。

はじめの2点は、「図書館のあり方を分散型から集約型へ転換します。」と書かれていることについてです。この「転換」について、その理由を「市民が必要な情報を得られるようにするため」と書いていますが、この説明は二重の意味で間違っています。

第1に、なぜ「分散型から集約型」になった方が、市民が公共図書館を利用して情報を得る上で、より情報を得やすいといえるのでしょうか。

多摩市民は身近に地域図書館があるおかげで、図書館を通じて情報を得ることができているのです。「分散型」だからこそ、「身近」で図書館を利用し、また「身近」を感じることができたのです。もしさらに市民が図書館を利用して情報をより得やすくすることを考えるのなら、この土台のもとに、全体をカバーする中央図書館を配置することをめざすべきです。

第2に、「市民が必要な情報を得られるようにする」ことだけを掲げるのは、図書館の目標としても、また、「② 学習環境の整備 (⇒C2-1-1)」という枠組みとしても、極めて貧困な目標設定であり、間違っています。

まず多摩市の図書館は身近なところに豊かな学習・文化環境を育てようという市民の地道な文庫活動を基盤にして、地域配置が進められてきました。図書館への期待は単に、「情報」提供ではないのです。また、「学習環境の整備」は「情報」提供ということに限定されず、図書館にも限定されません。公民館、児童館、文化施設で、さまざまな学習・文化活動が展開され、その中で市民が学び、想像し、深く考え、創造し、表現し、さらにそのような活動を相互に交流していくことによって、はじめて「豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり」が実現するのです。多摩市はさまざまな形でこのような施策を展開してきました。重点施策といえども、それらの土台の上で、「重点」をおく理由や全体の中での構造が示されなければならないと思います。

3点目は、この「② 学習環境の整備 (⇒C2-1-1)」では、その説明が「『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』の実現を図りつつ」という言葉からはじまっていることについてです。／この「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」は、「豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり」とは対立する施策を多く孕んでいます。公民館、図書館、児童館の多くを削減する施策案をもっています。これは第5次基本構想が「将来都市像」として掲げている「みんなが笑顔ののちにぎわうまち多摩」と、またそのもとで掲げられている「目指すまちの姿」「④ 働き、遊びみんなが活気と魅力を感じるまち」と逆行するものです。／基本計画の「施策 C2-1 市民の文化・学習・スポーツ活動の振興、そのもとで想定されている「施策の目指す姿」として「こころ豊かな暮らしを送るために、市民は、整備された環境のもとで、文化・学習・スポーツ活動を気軽に楽しんでいます」にも対立しています。

出典：第五次多摩市総合計画第2期基本計画原案に関するパブリックコメント

●社会教育施設のひとつとしての地域図書館を主題とした活動

2015年7月13日

4団体による市長との協議についての要請

私たちは、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」(以下、プログラム)で廃止・統合が打ち出された複合施設や地域図書館の存続を願って、市長への要請書の提出、市議会への陳情などを行ってきました。また、市長との対話や協議を重ねてきました。市議会も1万5千筆の署名に示された地域住民の声を受け、陳情を採択や趣意採択としました。

2015年8月27日

多摩市議会議員 萩原重治 様
多摩市議会議員 各位

地域図書館および複合施設等の存続と「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の抜本的見直しについて

一 懇談会開催の要請 一

私たちは、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」(以下、プログラム)で廃止・統合が打ち出された複合施設や地域図書館の存続を願って、市長への要請、市議会陳情などを行ってきました。また、市長や行政との対話も重ねてきました。市議会も1万5千筆の署名に示された地域住民の声を受け、陳情を採択や趣意採択としました。このような地域住民の切実な願いに応え、市長が地域施設の存続と「プログラム」の抜本的見直しに踏み出すこと、また8月発表予定の「プログラム」更新の取組みや「個別施設の時点修正」に民意が反映されることを願って、「4団体と市長との協議」(資料①)を要請し提案もしてきました。市長と4団体の協議・懇談は8月2日に行われました。多摩市はこの日を前後して政策情報誌「みんなで考えよう 公共施設の見直しと将来像」の各戸配付を開始、数日後「行動プログラム」のこれまでの取り組みと今後の進め方(以下、今後の進め方)を発表しました。しかし、政策情報誌は2013年「プログラム」の再版に等しく、「今後の進め方」は民意に押された若干の「手直し」や「対話の継続」はあるものの、600人アンケート、ワークショップ、パブリックコメントなど、従来のやり方と変わらず、地域住民の願い「民意」が届くものとはなっていません。

2015年11月30日

多摩市議会議員、各会派・議員 皆さま

議員懇談会、会派懇談 ありがとうございます。

地域図書館や複合館等の存続と「公共施設の見直し行動プログラム」(以下、プログラム)の抜本的見直しについて、10月21日の市議会議員懇談会に続き、各会派のご協力をえて11月4日～13日の間、5会派23議員と4団体のべ50人による懇談が行われました。

2015年12月8日

多摩市教育委員会

清水哲也教育長 殿

多摩市の図書館行政に関する懇談会の要請

2年前の2013年、市長は「将来の財源不足」を理由に、教育委員会に「地域図書館4館廃止 3館集約」方針を、図書館行政の管轄部署の教育委員会に諮問しました。教育委員会は図書館協議会にその是非を問いましたが、同年8月に図書館協議会はその論議の中で「多摩市では、これまで7館の図書館を整備し、極めて優れた活動をしてきました。統計では地域4館の貸出数は全体の30%を占めている。利用圏内は概ね2kmが限界と言われている。廃止は多くの利用者に不便となる。検討の時間が極めて少なく、意見集約は不十分と言わざるを得ません。」と述べています。教育委員会の委員長も「時間的にもちよっと検討は難しいと思いますので、図書館に関しては継続で進めたいと思います。」と述べています。それにもかかわら

2016年2月19日

多摩市教育委員会 清水哲也教育長 殿

豊ヶ丘複合館存続の会 代表 大橋 慶一
聖ヶ丘図書館の存続を考える会 代表 横芝 麗子
東寺方複合館の存続を考える会 代表 齊藤 仁
唐木田図書館の存続を考える会 代表 中江 智明

市長・市長部局は、地域の複合館や図書館の存続を求める市民15,000筆にのぼる署名や議会の存続陳情の採択結果を受けて、プログラムの「更新」見直しを行うとし、図書館については改めて教育委員会で検討を進めると、私達市民に説明してきました。12月8日の「多摩市の図書館行政に関する懇談会の要請」の後に「読書活動振興計画」(原案)が出され、パブリックコメントや市民懇談会が開催されました。

そこでこのことも踏まえて、12月8日の「要請」に下記を加え、教育委員皆さまのお考えをお聞きかせたいと、私達の思いをお伝えし、実りある懇談会にしたいと考えます。よろしく願います。

①教育委員会の所管事項である「多摩市読書活動振興計画」(原案)は、地域図書館の廃止・縮小を進めるものです。市民懇談会やパブリックコメントでは、撤回、再検討、3月中の決定を止めて慎重審議を の声が上がっています。計画原案と市民の声について、委員皆さまのご見解をお聞かせください。

④4つの地域図書館は、複合施設(コミュニティセンターおよび児童館等との複合施設)の中にあり、その利用実態からしても、多世代の市民一人ひとりの教育・文化活動、コミュニティ活動を支える地域の基幹的な施設です。地域図書館をどのように評価されていますか。

教育委員会におかれましては、市民とりわけ地域住民の願いに応え、地域図書館の存続に踏みだされることを切望します。

日時：平成28年8月25日(木)10：00～11：00

場所：関戸図書館活動室

出席：多摩おはなしの会：7人

多摩市立図書館：笹原主査、阿部関戸図書館長、村野子ども支援係長、松田、小澤

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

これまでの「おはなしの会」の活動について

・「多摩おはなしの会」の活動について

- むかしばなしを中心とした語りを勉強をしている。
- 連合会ではなく、個人で活動に参加している。
会員それぞれが地域で文庫やおはなし会の活動をしている。
- 有名な語り手を招いておはなし会を企画している。
- 今年度の会員13人

・図書館とのかかわりについて

- 関戸図書館で月2回おはなし会を行っている。図書館職員も参加している。
職員参加、プログラムは図書館と相談して作っている。資料も図書館が用意する。
- 秋色おはなし会 年1回
- ほんともフェスタでのおはなし会
- わらべ唄、ストーリーテリング講座を図書館で開催してもらった。

・それぞれの「文庫／おはなしの会」の活動について

- つくしんぼ文庫：活動33年、聖ヶ丘図書館でおはなし会を行っている。
- おはなしの会胡桃：会員7人、活動4年。初心者向けの勉強会。つくしんぼ文庫の会員と図書館主催の講座を受けた人から活動が広がった。
1学期に1人つくしんぼ文庫の聖ヶ丘小学校のおはなし会に参加。
- おはなしどんぐり：会員7人、活動11年。関戸図書館（文庫連に所属）
小学校のおはなし会に年4回程度いっている。
和田中学校の全クラスで朝の読書の時間におはなし会を行っている。
特別支援学級でもおはなし会を行っている。
- パネルシアターサークルきらきら：会員3人、活動14年目。東寺方図書館と児童館で活動。
- 元図書館員。個人で、保育園・小学校でおはなし会をしている。本の紹介もしている。
- もりの文庫：現在会員2人、活動20年くらい。愛宕児童館でおはなし会を行っている。

・図書館とのかかわりについて

- おはなし会をボランティアにまかせっきりの状態があった。図書館といっしょにやりたいと、こちらからお願いして図書館員が立ち会うようになり、プログラムも一緒に考えるようになった。
- 稲城市では、図書館の児童担当が活動方針を決めてボランティアもその方針に沿って参加してもらっていた。図書館員とボランティアと一緒に研修もしていた。多摩市は、いろんな団体が活発に活動がしているが、図書館自身の活動が見えてこない。専門職として主体的に方向性が示せないのだろうか。
- 以前「読み聞かせはするがストーリーテリングはしない」と明言した図書館長がいた。
善し悪しは別として、図書館の姿勢ははっきりしていた。
- 関戸図書館は子ども開架に近いところに独立した部屋で活動室があるので、おはなし会をしやすい。
本館のおはなしコーナーは、カーテンで仕切られているだけで外の音が入ってくる。

これからの「おはなしの会」の活動について

・支援してほしいこと、協働するために考えたいこと

- コーディネート
 - ・図書館、学校や保育園などでおはなし会を行う機会を増やしたい。図書館が学校につなぐなど、橋渡しをしてほしい。
 - ・おはなし会に来る子どもが減っている。おはなしの機会がなくなると、会の活動も先細る。
おはなしに触れる機会を増やすことで、子どもが図書館に帰ってくる。
- 講座の開催、研修
 - ・ストーリーテリングやわらべ唄の講座を定期的に行ってほしい。
 - ・図書館員とともに勉強会を行いたい。
 - ・図書館でおはなし会を行う人は、研修の義務づけなどで一定のスキルがあるようにしてほしい。

・基本構想策定委員会に伝えたい「活動の場としての図書館」について 「新中央館に望むこと／地域館にのぞむこと」

- おはなし室
 - ・広くなくて良いが、子どもが落ち着いておはなしを聞ける独立した部屋がほしい。
 - ・外部から音が入らないようにしてほしい。
- 講座や研修ができる部屋
 - ・他市のサークル等との交流会や講師を招いておはなし会を行うので、活動ができるスペースがほしい。
- 配架を考え直して、資料が揃うようにしてほしい。
 - ・どこの館でも返却できるが、資料の位置が固定されていないので揃わないものがある。
やりたいおはなしの本を個人で購入することも多い。タイトルが揃っていれば図書館で選ぶことができる。「おはなしのロウソク」愛蔵版なども数セットあるはずだが、歯抜けになっていて、ひとつの館で全部見ることができない。
 - ・いまの図書館では子どもの本が出版社別に配架されている。むかしばなしは、お願いして配架を変えてもらったが。
- 地域館の職員の移動
 - ・地域館の図書館員はベテランにしてほしい。おはなし会をやるなら図書館と一緒にやりたい。
 - ・職員が数年で異動してしまうと協働してきた活動を一から説明することになる。
- 図書館員の専門性
 - ・しっかりとした専門職がいてほしい。
 - ・おはなしや本のタイトルがわからない図書館員もいた。もっと研鑽を。
 - ・おはなし会の企画なども、頼りきりでなく、図書館で何ができるか考えてほしい。